

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」
 2021年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2022年 4月 5日 提出

1. 研究課題名	
土地利用の粘着性・経路依存性についての研究 (英文課題名 Stickiness and path dependence of land use patterns)	
2. 研究代表者	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
佐藤泰裕 (さとうやすひろ)	東京大学大学院経済学研究科・教授
3. 研究分担者 (合計: 1 名)	
氏名 (ふりがな)	所属機関・職名
山岸 敦 (やまぎし あつし)	プリンストン大学博士課程・学生
4. 研究課題の概要 (300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)	
<p>伝統的に都市経済学においては、土地利用を分析する際に、長期的に安定した状態に注目してきた。土地利用が変化している状態は、一時的なもので、いずれ長期的に安定した状態へと収斂すると考えてきたのである。しかし、実際に土地利用が変化するには時間が必要であり、移行過程がどの程度の時間を必要とするか、更に、その変化の過程が一意ではない、つまり、経路依存性をもつか、はこうした伝統的な分析の有効性を大きく左右する。そこで、本研究では、過去の土地利用がどの程度の期間土地利用を左右するか、また、経路依存性を持つか、を分析する。その際、具体的には、京都の地籍図 GIS データを活用し、大正期の京都の土地利用と現在の土地利用の様子を比較する。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>過去の土地利用がどの程度現在の土地利用を規定するのかを分析するため、1912 年の京都地籍図における地価と現在の京都の路線価とを比較した。その際、いわゆる同和地区に注目し、その内外での地価の差を空間回帰不連続デザインで分析することで、同和地区に対する差別の程度を可視化できることを示した。分析の結果、1912 年には同和地区の外に比べるとその内側では地価は半減していたが、2000 年代には 1-2 割の減少にとどまることが示された。これにより、100 年前に比べると同和地区に対する差別は和らいだものの、いまだ根強く残っていることが分かった。</p>	

6. 研究業績 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

(1) 著書

- ・佐藤泰裕・田渕隆俊・山本和博「空間経済学」(2011年)有斐閣、共著。
- ・佐藤泰裕「都市・地域経済学への招待状」(2014年)有斐閣ストゥディア、単著。

(2) 論文 (全て査読あり)

- ・Sato, Yasuhiro, and Yves Zenou (2020) Assimilation patterns in cities, *European Economic Review* 129, 103563.
- ・Morita, Tadashi, Yasuhiro Sato, and Kazuhiro Yamamoto (2020) Demographics and competition for capital in political economy, *International Tax and Public Finance* 27, 865-889 (2020).
- ・Sato, Yasuhiro, and Yves Zenou (2015) How urbanization affect employment and social interactions, *European Economic Review* 75, 131-155.
- ・Miyagiwa, Kaz, and Yasuhiro Sato (2014) Free entry, regulatory competition, and globalization, *Journal of Public Economics* 118, 1-14.
- ・Moriconi, Simone, and Yasuhiro Sato (2009) International commodity taxation in the presence of unemployment, *Journal of Public Economics* 93, 939-949.
- ・Sato, Yasuhiro (2007) Economic geography, fertility and migration, *Journal of Urban Economics* 61, 372-387.
- ・Sato, Yasuhiro, and Kazuhiro Yamamoto (2005) Population concentration, urbanization, and demographic transition, *Journal of Urban Economics* 58, 45-61.

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動 (報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

- ・応用地域学会、坂下賞、2007年
- ・応用経済学会、応用経済学会賞、2011年

(7) 科学研究費助成事業

- ・人口動態の空間経済分析、基盤研究(B) (一般)、平成27年度-平成29年度
- ・人口動態が地域経済政策に及ぼす効果についての空間経済分析、基盤研究(B) (一般)、平成30年度-令和3年度、研究代表者

(8) 競争的資金等 (科研費を除く)

(9) その他